

「チーム力の真価が問われる時期」

県北教育事務所 所長 菊池 栄人

新年を迎え、各校では新たな気持ちで教育活動が再始動されたことと存じます。年の変わり目でありながら、学校現場にとっては、いよいよ年度のまとめと次年度への助走が重なる重要な時期です。日々、子どもたちのために力を尽くしておられる教職員の皆様に、心より敬意を表します。

さて、私が以前勤務した学校で、先輩の先生から、渡り鳥の話を教えていただいたことがあります。渡り鳥はV字に隊形をそろえて、集団で長距離を移動します。編隊の先頭を飛ぶ鳥は最も強い向かい風を受けますが、疲れが見え始めると自然に隊列を外れ、別の一羽がずっと前に出ます。合図も指示もありません。けれども、「今、この仲間を支えよう」という本能的な行動が、群れ全体のエネルギーを節約し、遠く離れた目的地まで導いていくのです。

その後ろに続く鳥たちは、上昇気流を受けながら力を温存し、またその役割を引き継いでいきます。経験豊かな個体は進むべき方向を示し、若い鳥はその背中を見てルートを学びます。個の力を越えた“群れとしての知恵”が働いてこそ、彼らは命がけの旅を成し遂げることができます。

1月からの教育活動も、まさに同じだと感じています。年度終盤に入り、学校現場では、学習のまとめ、生徒指導、進路指導、卒業式、年度末事務処理、新年度準備など、多くの業務が重なります。誰か一人が無理をして先頭を走り続けるのではなく、互いの状況に目を配り、時には前に立ち、時には後ろから支えることで、組織の力は最大限に発揮されます。

子どもたちにとって、学校は学びの場であると同時に、人と協力し合いながら成長する場です。教職員がチームとして助け合う姿は、そのまま子どもたちの学びのモデルとなります。

新しい年が、教職員の皆様にとって、そして子どもたちにとって、安心して力を伸ばせる一年となるよう、教育事務所としても全力で伴走してまいります。どうか今年も、互いを支え合いながら、学校という大きな“編隊”を力強く進めていきましょう。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

学力向上推進プロジェクト事業に係る学びのイノベーション推進プロジェクト実証研究校公開授業

本年度も県内で学力向上推進プロジェクト事業に係る学びのイノベーション推進プロジェクト実証研究校における公開授業が行われました。この事業は、「探究的な学び」における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指したモデル授業を発信し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進することを目的としています。

県北管内では、常陸太田市立峰山小学校で外国語科、高萩市立高萩中学校で社会科の授業が公開され、管内の先生方を中心に多くの先生方にご参加いただきました。研究校での実践について、それぞれに校内研修等で共有を図り、授業改善にご活用くださいますようお願いいたします。

【小学校外国語科】第5学年 「Lesson 8 My Hero」

峰山小学校では、友達に自分のことをより知ってもらうために、憧れや尊敬の念を抱く自分の「推し」の得意なことやできること、その人柄などの情報を整理し、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができることを単元の目標に授業が展開されました。児童が自分に合ったコースを選択しながら発表に向けて準備していく場が単元を通して設定されました。児童は、自分の「推し」の魅力が伝わるように、友達やALTからの質問やアドバイスを基に発表内容を考え直したり、タブレットや生成AIを活用して自分が伝えたい英語を調べたりしながら、一生懸命授業に取り組んでいました。また、授業後の研究協議では、本時の目標を達成するための手立てやICTの効果的な活用について、活発な意見交換がなされていました。

文部科学省早川調査官からは、指導講話の中で、「一人一人が自分に合った学び方を選択し、自分の課題を追究していく姿があった。児童の学びがきちんと保証されており、すべての子どもたちが主人公になれる学びであった。普段からしっかりと取り組んできた努力を感じた。イノベーションという言葉にふさわしいチャレンジングな取組だった。」というお言葉をいただきました。

<参観された先生方の感想>

- ・子どもたちも授業者も生き生きと活動していて素晴らしいと思った。
- ・児童の気持ちに寄り添った課題設定、活動内容になっていた。
- ・児童のつぶやきを全体に共有し課題解決につなげており大変参考になった。
- ・児童一人一人が自分の学習方法を選び、主体的に活動している姿に感銘を受けた。



【自分の「推し」を紹介している様子】

【中学校社会科】第2学年地理的分野「関東地方・地域の在り方」

高萩中学校では、「日本の諸地域」と「地域の在り方」の2つの中項目をつなげた単元構成、生成AIの活用という工夫を通して探究的な学びの充実を目指した授業が展開されました。生徒たちは、関東地方の学習を通して培った地理的な見方・考え方を生かし、高萩市の課題に対する解決策について生成AIを活用しながら自分たちの考えを深める学習に意欲的に取り組みました。また、授業後の研究協議では、単元構成の工夫や生成AIの活用について熱心な協議がなされました。

講師の文部科学省小関調査官や義務教育課篠崎指導主事から、中項目をつなげて「地域の在り方」という地理・歴史・公民の3分野に関連する学習の充実を図った提案性の高い授業であると高く評価されました。

<参観された先生方の感想>

- ・3分野のつながりがある「地域の在り方」の単元の大切さを改めて感じた。今回の授業を参考に地域課題の探究を実践していきたい。
- ・生徒たちが実感をもって学ぶためには社会科の学習内容と地域を関連付けた学びが大切だと感じた。
- ・生成AIに流されることなく、自らの知識や思考を深めるための1つのツールとして効果的に活用する重要性を改めて感じた。
- ・生成AIの活用は試行錯誤が必要。授業のねらいの達成に向けた効果的な活用の在り方については、今後も検討が必要だと感じた。



【生成AIを活用したグループ学習】